

## 夏来ると

松岡隆子

その先は急流ならん花筏  
ときどきは風に戻され花筏  
緋躑躅の昼やとりとめなく過ぐる  
降りみ降らずみ残桜の暮るるまま  
曖昧な記憶に佇てる茅花かな  
亀鳴くを聞かんと水辺暮るるまで  
花は葉に風のひと日を歩き足る

急 磴 の 四 十 七 段 見 上 げ 夏  
滝 音 の に は か に 高 き 立 夏 可 な  
夏 来 る と 向 う 岸 ま で 石 づ た ひ  
病 葉 の 落 つ る に 美 し き 水 の いろ  
視 野 の 端 を 蜥 蜴 過 り し こ と 確 か

準備万端ととのつて開催を待つばかりだった三周年記念の会が中止となつて二年目のこの春、漸く五周年記念祝賀会を催すことができた。若葉明りのもと再会の笑顔が弾けた。二年間のブランクは一気に縮まり、昨日の続きのように時間が流れて行った。乾杯のグラスを上げることも賑やかに語り合うこともできなかつたが、集い合えたことだけで嬉しかった。ささやかではあつたが爽やかな良い会だつた。折からの眸晴れに先生の笑顔が思われ、ご一緒できなかつた方々の祝意が思われた。